

秋の台風シーズン到来前に、新型コロナウイルス対策に対応した緊急の避難所開設訓練が市内小学校の4校で調布市の主催で実施されました。多摩川周辺の3地区協が見学を兼ねてそのうちの一つの富士見台小での開設訓練に参加しました。

お互いの距離を保つ必要から体育館内の収容人員は最大で56名に限られ、水害・災害時の実状とはかなりの格差があり、行政や公共の避難所に頼ることなく、各家庭でそ

**布田小学校  
田植え**

6月6日(土)  
斉藤農園



列になって同時に苗を植える

今回初めて参加する方の中にいる参加者の顔は、童心に返って楽しそう。あぜ道に立つて紐の移動や苗の植え方をアドバイスされていた立川さんは、ご近所にお住まいで、会社勤めの傍ら斉藤農園の運営にも長く携われ、退職されてからは布田小の田植え・稲刈りなどの行事も毎年サポートされています。

皆さんが愛するこの地域への願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会  
会長 依田 耕児



当地区協ではこのマイタイムラインの浸透を図っていきます。

**緊急**

**避難所  
開設訓練**

7月22日(水)  
富士見台小で実施

**台風シーズン  
前に  
新型コロナウイルス対策**

街の写真館



撮影・長谷川克正

「一連托生」

昨年の台風19号の経験から地域各家庭でのマイタイムラインの浸透を図ろうとしていた矢先に一気にコロナ禍の世の中になってしまいました。

地区協の大きな役割の一つは避難所を開設運営すること、今後発生する地震、水害水浸時における避難所にコロナ対策を突如余儀なくされた状況です。

昨今の気象変動から今年の秋にも昨年同様の心配と対策を急がなければなりません。また地震はいつ起きてもおかしくない状況は全く変わっていません。自然の災禍には無力感も禁じ得ませんが人間ができる準備を事前に行い、日々の安心な地域を目指すのが地区協の役目です。

行政も学校も未だ経験のない事態に対し粉砕骨身の毎日です。地域が皆同じ船に乗った運命共同体の覚悟、一連托生を合言葉として取り組んでいければと思っています。

皆さんが愛するこの地域への願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

布田小地区ハッピータウン協議会  
会長 依田 耕児

**布田小地区ハッピータウン  
協議会 総会**

当地区協では、3月の運営委員会から会議を中止していましたが、5月総会決議事項に関する確認のための会議を5月30日にZOOMで行いました。リモート会議には理事役員13名が参加し、詳細な討議が円滑に行われました。



総会確認事項をZOOMで開催

新型コロナの影響で、最後に開催した2月以降、開催を見合わせているハッピー子ども食堂ですが、社会情勢を考慮して集団で食事する形態での実施を当面の間保留しています。早く再開できるようになることをスタッフ一同心より願っています。また皆さんに開催の通知が届くのを楽しみにしててください！

**ハッピー子ども食堂**



河江 秀俊さん  
(かわえ ひでとし)



①71歳 ②静岡県 ③62年  
④「空・無」の心 ⑤ゴルフ、太極拳 ⑥今年度から布田南部自治会長を託されました。小4年(富士見台小)の時、現住所に転居してから62年になります。この運営委員就任に当たり、「安全で安心ないきいきとした地区をつくる」ため、当自治会による子供食堂開催場所の提供、地域の安全確保の推進等を行っていきたくと思っています。(布田南部自治会 会長)

**新運営委員**



門傳 良男さん  
(もんでん よしお)

①74歳 ②調布市 ③58年  
満州生まれ-糸魚川-塩釜-調布市多摩川  
④「1%は100%」⑤尺八、ウォーキング、オリエンテーリング、キャンプ、スキー ⑥桜丘睦会会長は3期目の5年目になります。行動の基本は、自分自身が楽しい・面白いと思うことをするという考えです。そればかりじゃないだろうという意見もあると思いますが、それでもその中に面白さを見出します。(桜丘睦会 会長)

**Easy ランチパック  
スペシャル配布 Day**

9月19日(土)

ランチパック中身(例)  
ハウスカレー屋さん、ご飯パック、バナナ、あんパン、フルーツゼリー

対象・時間などの詳細は  
8月28日(金)20時に  
当地区協のWEB上に掲載します。



<https://happy-usako.jp>

**はっぴーなきずな**

「コロナ禍」とは「コロナウイルスによるマイナス社会現象」の総称らしい。確かに「三密回避」で人々の接触を禁じられた恐ろしい現象だ。だが、あらためて「人と人の繋がり」の大切さを思い知らされたと言っているだろう。取り戻そう「絆」を。(山本光則)

近ごろ、考えていることは「おしゃべり」の大事さについてです。職場でも家庭でも、不要不急で「のんきで、くだらなくて、意味のない」おしゃべりを心がけています。(益子和也)

**運営委員募集中!**

- ★年6回の運営委員会
- ★防災教育の日 避難所訓練
- ★地域の安全安心活動

お近くの上記運営委員にお尋ねください

布田小地区ハッピータウン協議会  
ホームページ  
<https://happy-usako.jp>  
スマホ対応で見やすくなりました

「今年はずいも私たちの歓声が聞こえないのは残念ですね。」  
休憩時間になり、野良作業用の地下足袋などを着けて、ひととき田植えを楽しんでいるように見えた、岡田さん・菊池さん・清水さん・浦野さんは二十人ほどの稲作ボランティアのメンバーだそう。きつかけは子どもが田植えや稲刈りをした時に手伝いに来たこと、やつてみたら面白そうなので布田小を卒業した後も都合がつけばボランティアで手伝いに来て十年以上になるといふ。「いつもは子どもたちが植えた後の補修をする程度だけど、今年は自分たちが主役で田植えをすることにいったら、しつかりやらな」と張り切っていました。お昼前には終了し、畔を流れる井戸水で手足を洗って、終



お疲れ様です、トラクター

了となりました。斉藤農園ではこの後、毎日水入れをして秋の稲刈りまで管理していくそうです。農園主の斎藤さんは、「この秋の稲刈りは子どもたちに繋げられれば良いのですが。先週末で田んぼにするために畑を駆け回って泥だらけになったトラクターも、農具を片付けて豊作を祈る『馬鍬洗い』で、洗ってキレイにしてあげる予定です。」とのことでした。

## 布田小学校のコロナ対策の様子



すべての教室の前後ドアが取り払われていた



必死なくらいまじめに石けんで手洗いする生徒たち



給食の給仕時には間隔を示す廊下に貼られたテープに沿って順番待ちをする

三月中旬より休校になっていた布田小が6月から登校が始まり、学校がどんな様子かを新しく赴任した樋川校長先生を訪ねました。  
『学校では一日五回（登校時、トイレ、休み時間、給食の前後）手洗いをしよう指導していて、子どもの下校後に教員全員で毎日各机の天板、椅子の背もたれ、トイレ扉のドアノブの清掃消毒を、またシルバーの方に階段の手すりを一日二回消毒清掃をしてもらっています。』  
『歌や笛などの授業やグループでの話し合いなどは現在も行っていない。とにかく

子どもたちは毎日一生懸命手を洗って手洗いが石けんの乾いたあとで真っ白になっています。』  
『教員の先生たちは子どもが学校に戻ってきたてくてく大変うれしくて楽しく、学校全体のかなにか一体感を感じます。不安はあるがなんとかなる、勉強が遅れているが慌てるのはやめよう、と教職員には言っています。』  
『換気を行うためクーラーをかけたまま常時窓を開放していますが、夏休みも短縮されて夏期酷暑時の授業中はどうなってしまうか心配です。』と、学校現場の状況を話してくれました。

## 新 校長先生



**樋川 宣登志**（ひかわのぶとし）（54歳）  
◎出身：東京都品川区 ◎赴任学校歴：新宿区、大田区、世田谷区、狛江市の小学校に教員とし勤務、その後東京都教育委員会、世田谷区教育委員会、行政を経て調布市へ。国領小、石原小、令和2年4月に本校。◎過去の学校での思い出：四半世紀ほど前に一度だけ一年生の担任した時とにかく子どもがかわいくて出勤が待ち遠しい毎日でした。◎座右の銘：晴耕雨読 ◎枕頭の書：梶井基次郎「檸檬（れもん）」◎趣味：本が手放せません、大好きです。◎ひとこと：新型コロナウイルス感染症による前代未聞の社会状況となっています。なかなか地域のみなさまにご挨拶する機会がありませんが、布田小学校への変わらぬ協力をよろしくお願ひいたします。

## 新 副校長先生



**石津 孝介**（いしづこうすけ）（40歳）  
◎出身：東京都（転勤族の家庭だったのであまり意識なしです） ◎赴任学校歴：東久留米市立第九小学校、調布市立調和小学校で教員として勤務、平成28年4月から令和2年3月まで調布市教育委員会指導室。◎過去の学校での思い出：算数の研究授業のとき、子どもたちが私の存在を忘れて話し合っただけで学べる機会があったことが一番の思い出。あれ以上いい授業はもうできないかもれない。◎座右の銘：「子どもの明日の笑顔のために」◎枕頭の書：村上春樹「羊をめぐる冒険」◎趣味：食べる、料理。教育委員会にいるとき、給食を食べたくてたまりませんでした。◎ひとこと：至らぬ点もあるかと思いますが、子どもたちの笑顔と成長のため全力を尽くします。

## 通学見守りボランティアの皆さん

①氏名 ②年齢 ③出身地 ④調布在住 ⑤見守りボランティア歴 ⑥好きなことば ⑦趣味 ⑧ひと言



④山本さん

①山本 光則（やまもとみつなり）②73歳 ③北海道 留萌市 ④41年 ⑤9年 ⑥天命あって、人事を尽くす（尊敬する先輩からのことば） ⑦「地図の歴史」探求 ⑧泣きながら通学していた1年生が卒業式の日立派に巣立っていく姿は実の祖父の気持ちになり感無量です。



④依田さん



①依田 耕児（よだこうじ）②55歳 ③調布市 ④55年 ⑤4ヶ月 ⑥雲外蒼天 ⑦自転車、カメラ ⑧20年間この同じ⑦で見守りボランティアをしていた母（依田光代）が今年83歳で引退しまして、そのあとを引き継ぎました。



④田中さん

①田中 一男（たなかかずお）②83歳 ③新潟県 長岡市 ④50年 ⑤17年 ⑥見返り求めづ ⑦古い映画の鑑賞 ⑧毎朝、純真な子どもたちがこのまま大人になってほしいといつも願いながら立っています。



④長谷川さん

①長谷川 克正（はせがわかづまさ）②72歳 ③東京都台東区 ④38年 ⑤8年 ⑥自然と共に ⑦パードウォッチング、写真 ⑧今、この地域内に6月に孵（かえ）った小さな猛禽の雛（ひな）の見守りもしています・・・嬉しい。（一面の写真）



④後藤さん

①後藤 哲男（ごとうてつお）②80歳 ③熊本県 熊本市 ④25年 ⑤20年 ⑥努力 ⑦合唱、クラシック音楽鑑賞 ⑧毎日登下校時の子どもたちから元気な声を聞くことで元気をもらっています。布田小卒業生から挨拶されると嬉しいですね。



④久場さん

①久場 兼三（きゅうばけんぞう）②83歳 ③江東区 深川古石場 ④54年 ⑤12年 ⑥あいさつと返事をいつも大切に ⑦カメラ、古民家、仏像 ⑧この都営住宅から最初は8人いたこの通学見守りボランティアが私一人になってしまいました。

## 地域の活躍人

「シルバー人材センター」という名前を、実際に庭木の剪定や除草などの仕事を依頼されたことが無くても、聞いたことがある人も多いかと思えます。全国的な事業協会組織で、実際の活動は原則として市区町村単位に置かれたセンターを中心に、それぞれ独立した運営をしています。今回は公益社団法人調布市シルバー人材センター会長の永谷誠さん。当センターの目的は、自分の能力を活かしながら自分なりの働き方で社会参加をしたいと考えている60歳以上の会員と、地域で発生する人材ニーズとのマッチングを行うことにより、高齢者自身の生きがいや生活の充実を図ると共に、活力ある地域社会を作り出すこと。ご自身も約十年前、六十歳を過ぎてそれまでの勤務先を退職し、地域でできる仕事として紹介されたのが当センターとの関わりのおかげで、地域福祉センターの受付業務の時には、野川の景色を楽しみながら通勤できる職住接近の生活を満喫したそうです。その後、理事として会

## 永谷 誠さん

（ながや まこと）  
～ 布田6丁目在住～



公益社団法人  
調布市シルバー人材センター  
会長

行っています。当センターに登録できる六十歳以上の調布市の人口は約六万人で、その約二・六%の方が当センターに会員の登録をしています。また、定年を迎えた七十〜八十%の方が何らか働きたいというアンケート結果もあります。



1階入口にぎっしりと掛け負った仕事の一覧が掲示されている



小島町3-87-4  
042-487-9375

かつて仕事の代表格だった駐輪場の整理は、機械の導入と共に減少するなど、仕事の内容と会員の経験・能力との両面で多様化が進んでいますが、仕事の依頼元も会員も共に地元の方という地域に根差した組織なので、地元との連携が大切だと考えています。地域に役立つ仕事を充実することで、高齢者には生きがいと生活の充実を実感してもらえれば、と考えています。』  
と、話してくれた永谷さんご自身が、まさにその生きがいと充実を体現されているようでした。（文・藤田秀雄）